

東京兒童保護協會

設立者 三浦謙三郎

東京兒童保護協會が、會長には江原素六氏を頂き、其他名士の方々の賛成を得て、深川富川町私宅（三浦醫院）に生れ出ましたのは、大正九年七月でありました。もう既に一ケ年餘も経過して居りますが、私共の希望ばかり多くて、資力に乏しく、未だ協會の建物さへ確定されてありませんのは、誠に不自由に感じて居りますが、この本所深川附近には、追々と了解を得て、日に／＼内容も豊富にされつゝあります。

私が、如何にしてこの事業を始めるやうになつたかを申しますれば、私は長い間この町に醫業をして居りましたので、労働町とも云ふべきこの附近の子供達の病氣を見ましても、又子供について來る親達の健康状態を見ましても、先づ第一に兒童の健康、それから家庭の改良といふ事が、どんなに必要なのであるかを、つくづく感じました。

この附近の狭い家には、子供は遊び場もなく、自然と道路へ出て遊ぶ、その爲め電車自動車で怪我を

する子供が、毎日のやうに私のところへ連れて來れるといふ風で車掌に聞けばよくわかる事ですが、菊川町富川町邊は市内で一番事故が多いと云ひます。其故子供達の保護をする事がどんなに必要であるか、この一事でもお解りでありませう。

昨年會を組織する迄には、數年前から色々私共同志がよつて兒童研究をしたものでありまして、大戰後雨後の筈の如く諸所に起つた託兒所、内務省文部省の兒童保護宣傳、各種慈善團隊の此の方面への活動等よりも、遙かに私共の方が先だつて居つたのです。然しなかく一箇のまとまつた會には成らずに居つたのが、社會の兒童保護の空氣に觸れて、此の會がやうやく成立したのでありました。

この東京兒童保護協會は現在どんな事業をしてゐるか云ひますれば、兒童相談所、日曜會、母の會を常設事業として催して居りますし、臨時事業として兒童講話會、徒弟講話會、通俗講話會等でありま

す。

兒童相談所は私宅で毎週水、日の二日午後六時から九時まで行はれまして、私は主として衛生の方を、他に附近の小學校の先生をお願ひして、學業、徳性の上の相談等をして居りますが、毎月十數名づゝ相談に来る人がありまして、三月の學年末には、子供を奉公に出したいがどんな所にやつたらよろしいか等といふ奉公口の相談で大變多忙になります。

日曜會といふのは毎日曜午後富川町簡易食堂に於て催される子供の會でありまして、十歳以下の男女兒童百名づゝの來會者があります。之も教訓と娛樂とをかねるやうにして、小學校の先生方に來て、お話をして頂いて居ります。

母の會は毎週日曜の夜に催されるのでありまして、之も富川町簡易食堂を會場に用ひ、五十人内外の出席者があつて、勞働者のお主婦さん達です。母の勉めとか家庭衛生とかいふ類のお話を聞かせ、浪花節、琵琶等の餘興もそへて、面白くして居ります。

兒童講話會は、少年少女の爲め趣味本位の講話を大塚講話會の援助に依つて開催しましたので、第一回の時にも五百名内外の少年少女等が集つて盛會で

ありました。

徒弟講話會は商工業に従事する青少年の爲め其休日の夜間を利用して、趣味と實益に富む講話をするので、時々名士の方に講演を御願ひします。これも百名ばかり集りました。

通俗講話會は父兄の爲めに名士を招聘して、時事問題や思想問題等の講演をするのでありまして、これは中流位の方がお聞きになつても興味ある位の、割に程度の高いものであります。これは嘗て催した時には三百名も集つて實に盛大でした。

これ等の講演會は、主として本所深川方面に於て開催して居りましたが、順次に其の範圍を擴張して全市に亘つてしたいと思つて居ります。また私共の協會の研究部では、兒童讀物に關する調査、小公園設置に關する調査、貰子保護、無籍兒童に關する調査等の歩を進めて居ります。

私共の協會で目下最も希望してゐる事は、兒童會館建設でありまして、この協會に屬する建物がありませんと、この邊で最も必要とする託兒所も、兒童運動も圖書館も、集合場も皆此の建築物の中に設立される事が出來ます。何とかして建物を欲しいと思つ

て居ります。

次には薄弱兒童轉地療養所、つまりこれは夏の間だけ體の弱い子を海岸なり山間なりに避暑に連れてゆくやうにしたいのでありまして、今年の夏から行ふ手筈でしたのが、準備が間に合ひませんでした。來年の夏からはきつと行ひます。

大正婦人會託兒所

主任 佐伯富士子

近頃貧民階級の住して居ります町々に、託兒所が澤山出来ましたが、其の中でもこの芝區新網の託兒所は貧しい子供の託兒所として最も色彩の濃いものでございませう。

新網に足を入れたことのない方々は、想像も出来ないかも知れませんが、本所深川あたりの労働者町はこれほどもないやうに思はれます。此處に住んでゐる人々は、工場に通ふ人々は上等でありまして、乞食をしてゐたり、縁日に三味線を弾いて歩きまわる人や、どんづきに出かける女等の類であります。一戸をかまへてゐる人々は、ともかくも生活してゐま

巡回看護婦を雇ひまして、中産階級以下の各家庭を訪問し、疾病其他の事故者あれば、適當な注意と處置を與へ、主として乳兒幼兒の保健的教養に努力させるつもりです。

この外に兒童保護の宣傳をし併せて本會の事業を發表する機關雜誌を發行したいと思つて居ります。

すが、同居人といふものが、一番仕末におへないのであります、四疊半に三組の夫婦が居る、昨日まで二階にゐた夫婦者は今日は居なくなつて、他の者が這入つてゐる、といふやうに、實に變化極りないものであります。

このやうな家庭から來るのでありますから、託兒所に通ふ子供も、千差萬別であります。雨の降る日は親達が労働を休みますから、子供も家に引どめられて十四五名しか参りません。天氣の日は三十六七人通つて参ります。子供達は、實に亂暴で、お行儀が悪く、言葉つかひの下品なこと、中々教へ導くの